

TYPE OF INDUSTRY

情報通信研究機構 NICT 先端研究

107

現代人にとってインターネットは生活上欠かせないツールである。インターネットにおけるソーシャルネットワークワーキングサービス（SNS）は、世間の認知度も高く、使用者の数は膨大である。S

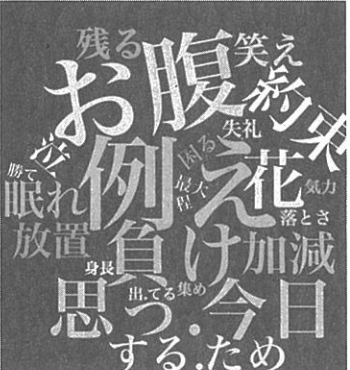
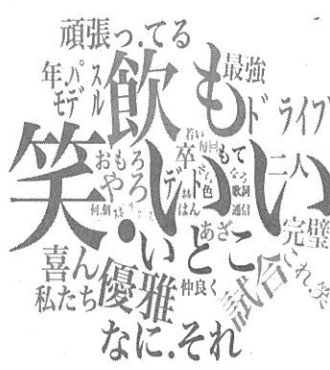
NSは、利用者の日常 Facebook（フ化）する。ある被験者の生活の一部と化している。フェイスブックへ投稿、単語の使用傾向とその場合が多く、このこされた内容を自然言語 被験者のパーソナリティ（ツイッター）へ投稿とは、SNS上での振 処理の手法を用いて解 イーテスト（心理学研 された内容から性格をる無いから、人間に関 析すると、利用者の性 究で用いられる性格判 予測する研究を進めてする多大な情報を得る 格を予測できることが 断手法）を合わせたデ いる。Big5と呼ばれることができることも意 明らかになってきた。 ータを多数の被験者か れる、性格に關係する味する。 自然言語処理の解析 ら収集し、この大量の 五つの主要因子（外向 SNS上でのさまざ では、文章を1単語、 データを機械学習で解 性、協調性、神経症傾 まな行動には、個々人 もしくは2、3単語の 析することにより、S 向、誠実性、開放性）の性格が反映されてい 連なりに区切つて、そ NS利用者の性格を予 が予測できる。 最近の研究では、 れらの出現頻度を定量 測するのである。 外向性の高い利用者

SNS投稿から性格予測

脳情報通信融合研究センター！ 森 数馬
2008年大阪大学人間科学部卒業、13年広島大学大学院総合科学研 究科博士課程修了。産業技術総合研究所などで勤務後、16年より現職。 SNS上の行動と性格の個人差に関する研究に従事する。博士(学術)。



科学技術・大学



外向性の高いSNS利用者①と神経症傾向の高い利用者の予測に寄与した単語群

および神経症傾向の高くており、予測に役立つ単語がよく使用した単語を示した。それが読み取れる。 機械学習モデルを拡張させることで、性格だけでなく、購買行動や外食頻度などの人間のさまざまな行動を予測できる可能性があり、現在、研究を進めている。将来はSNSデータのみになく、IoT（モノのインターネット）から得られたデータやスマートフォンから得られるデータも統合して、個人の性格をより詳細な部分まで予測する機械学習のアルゴリズムを作成することも可能になるだろう。

（火曜日に掲載）